# 電磁気学 1 演習 第14回 解答

56. 直径d, 長さlの導電率 $\sigma$ の導線の抵抗を求めよ。具体的な値として、直径0.5[mm], 長さ10[m]の銅線の抵抗を求めよ。ただし、銅の導電率は $5.8 \times 10^7$  [S/m]とする。

#### 【解答】

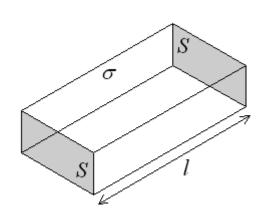
両端の電圧: V = El

電流:  $I = \sigma ES$  (ただし、S は抵抗体の断面積)

$$R = \frac{V}{I} = \frac{El}{\sigma ES} = \frac{l}{\sigma S}$$

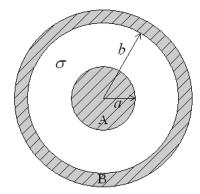
 $\mathbb{Z} \subset \mathcal{C}, \quad S = \pi (d/2)^2 \downarrow \emptyset,$ 

$$R = \frac{l}{\sigma\pi \left(d/2\right)^2} = \frac{4l}{\pi\sigma d^2}$$



d=0.0005[m], l=10[m],  $\sigma=5.8\times10^7$ [S/m]を代入すると、 $R\cong0.878$  [ $\Omega$ ]

58. 内導体 A の半径 a , 外導体 B の内側までの半径 b の円筒導体 A , B の間に導電率  $\sigma$  の物質がつまっている。この導電率は A , B の導電率より十分小さいとする。円筒の軸方向の長さを l として、A , B 間の抵抗 R を求めよ。まず、導電率  $\sigma$  の媒質を誘電率  $\varepsilon$  の誘電体に置き換え容量を計算し、C と G の類似性から求める。



### 【解答】

C と G の類似性 (アナロジー, analogy) を使うと知っている知識を使えるので計算が簡単である。まず、導電率 $\sigma$  の媒質が誘電率 $\varepsilon$  の誘電体だったとして C を計算する。A が単位長

あたり $\lambda$ [C/m]の線電荷密度に帯電しているとすると、ガウスの定理と対称性より、

$$\iint_{S} \mathbf{D} \cdot d\mathbf{S} = \iiint_{V} \rho dV$$

 $2\pi r l \varepsilon E_r = \lambda l$ 

$$E_r = \frac{\lambda}{2\pi\varepsilon r}$$

よって、

$$V = -\int_{b}^{a} E_{r} dr = -\frac{\lambda}{2\pi\varepsilon} \int_{b}^{a} \frac{dr}{r} = -\frac{\lambda}{2\pi\varepsilon} \left[ \ln r \right]_{b}^{a} = -\frac{\lambda}{2\pi\varepsilon} \left( \ln a - \ln b \right) = \frac{\lambda}{2\pi\varepsilon} \ln \frac{b}{a}$$

長さl辺りの容量は

$$C = \frac{Q}{V} = \frac{\lambda l}{V} = \frac{\lambda l}{\frac{\lambda}{2\pi\varepsilon} \ln \frac{b}{a}} = \frac{2\pi\varepsilon l}{\ln \frac{b}{a}}$$

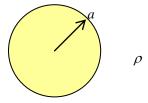
さて、C と G のアナロジーより、 $\frac{G}{C}=\frac{\sigma}{\varepsilon}$  から G を計算すると( $G=\frac{\sigma}{\varepsilon}C$  と計算すればいいのだが、簡単に言うと上の式で、 $C\to G$ ,  $\varepsilon\to\sigma$  と書き換えてしまえばいいということである)、

$$G = \frac{2\pi\sigma l}{\ln\frac{b}{a}}$$

よって、

$$R = \frac{1}{G} = \frac{1}{2\pi\sigma l} \ln \frac{b}{a}$$

58' 抵抗率 $\rho$ の無限に広い媒質中に半径aの導体球がある。導体球と無限遠の間の抵抗を求めよ。導体球の抵抗率は0とする。(静電容量とコンダクタンスの類似性より、まず容量を求め、その後 $C \to G$ ,  $\varepsilon \to \sigma = 1/\rho$ と置き換える。)



## 【解答】

誘電率 $\varepsilon$ の無限に広い媒質中におかれた半径aの導体球の静電容量は、

### $C = 4\pi\varepsilon a$

となる。したがって、静電容量とコンダクタンスの類似性より、 $C \to G$ ,  $\varepsilon \to \sigma = 1/\rho$  と

置き換えればよいので、

$$G = 4\pi\sigma a = \frac{4\pi a}{\rho}$$

$$R = \frac{1}{G} = \frac{\rho}{4\pi a} \qquad \blacksquare$$